

優秀映画鑑賞推進事業

加山雄三、上原謙、田中絹代

個性豊かな俳優たちの魅力があふれる作品を紹介いたします。

名作映画鑑賞会

1月26日(火) 9:10開場 9:30上映開始

亀山市文化会館大ホール

入場料(全自由席) 通し券 1,000円 (2本以上3本まで好きな映画をご覧になれます。)
一回券 500円 (上映作品3本中、いずれか1本をご覧になれます。)

① 乱れ雲 [1967年 東宝] (カラー)

9:30~11:18 監督/成瀬巳喜男
出演/加山雄三、司葉子、森光子 他



② めし [1951年 東宝] (白黒)

12:20~13:57 監督/成瀬巳喜男
出演/上原謙、原節子、島崎雪子、杉葉子 他



③ おかあさん [1952年 新東宝] (白黒)

14:15~15:53 監督/成瀬巳喜男
出演/田中絹代、香川京子、岡田英次 他



11月14日(土) 前売開始

チケット前売所 亀山市文化会館、フジヤ、
亀山エコ案内所、NPO 法人亀山音楽協会 (アイソ研究所)、
青少年研修センター、(一社) 亀山市観光協会、
(公財) 鈴鹿市文化振興事業団、鈴鹿ハンター、
みどり楽器、JA津安芸芸濃支店

主催：(公財) 亀山市地域社会振興会 (亀山市文化会館) / 国立映画アーカイブ
特別協力：文化庁、(社) 日本映画製作者連盟、全国興行生活衛生同業組合連合会
お問い合わせ先：亀山市文化会館 電話0595-82-7111



解 説

◆乱れ雲 [1967年 東宝] (カラー シネマスコープ 108分)

[スタッフ]

脚本：山田信夫 監督：成瀬巳喜男 制作：藤本真澄

[解説]

事故とはいえ車で人をひき殺した青年商社マン、その事故のせいで突然エリート役人の夫を失った女。この二人の微妙に揺れ動く心理を、成瀬巳喜男監督は淡々としたカットを積み重ねることでの的確に描き出していく。普通ならば交わることのない二人の関係を、『憎いあんちくしょう』（1962、蔵原惟繕監督）などで知られる山田信夫の緻密な脚本を得て、成瀬監督はそれぞれの心の葛藤にまでメスを入れた、内面のドラマへと昇華させていった。そこに横溢しているのは、あつという間に崩れていく人間の生のはかなさであり、死の匂いである。東京から青森に舞台が移り、当初の深い憎しみが徐々に愛情に変わりはじめ、自らの理性と感情の相克に悩むという、難しい役柄を司葉子が好演し、彼女の代表作となった。映画がまだサイレントであった1930年に監督デビューし、その後87本もの作品を世に送った巨匠成瀬監督の遺作にふさわしい秀作である。

◆めし [1951年 東宝] [白黒 スタンダード 97分]

[スタッフ]

原作：林芙美子 監督：成瀬巳喜男 制作：藤本真澄

[解説]

黒澤、溝口、小津に続く〈日本の四番目の巨匠〉として、今や世界中の映画批評家から熱い視線を受けるに至った成瀬巳喜男監督の代表作に数えられる作品。監督を〈世界のナルセ〉の地位に押し上げるに功のあったアメリカの映画批評家オーディ・ボックなどは、本作を成瀬作品のなかでもっとも好きな作品と語っている。結婚生活も5年が過ぎ、倦怠期を迎え始めた夫婦。そこに突然、夫の姪が転がり込んできたことから、単調だった二人の暮らしに思いもよらぬ波乱が生じはじめる。美男美女の主演二人が、本作ではともに中年にさしかかり、平凡で退屈な男と所帯やつれた女になったさまを、見事に好演している。原作は林芙美子による未完の新聞連載小説。その結末を含め、脚色を委ねられた田中澄江と井手俊郎の良質な叙情と煥発する才気とが美しく調和し、繊細極まりない成瀬の演出と玉井正夫の撮影のなかに開花している。

◆おかあさん [1952年 新東宝] (白黒 スタンダード 98分)

[スタッフ]

原作：「全国児童綴方集より」 脚本：水木洋子 制作：永島一朗 監督：成瀬巳喜男

[解説]

この作品は当時、全国の小学生から募集した作文をまとめた「おかあさん」をもとに、女流脚本家の第一人者、水木洋子が脚本化したものである。戦災で失ったクリーニング店をようやく再開したのもつかの間、夫は過労で病床に伏し、病弱な長男は息を引き取った。娘二人と幼い甥をかかえて懸命に働く母。そんな生活ぶりを長女の目を通して描いたこの作品は、日本映画のリアリズムの伝統を踏襲したものといえよう。淡々とした生活描写のなかで、母と店を手伝う昔の使用人との噂への反応や、密かに芽生える恋心など、思春期の少女の微妙な感情が、成瀬監督の丁寧で緻密なカットの積み重ねにより描かれ、独自の世界を築き上げている。主演の大スター田中絹代がこの翌年、初めての監督作品『恋文』を演出することになった時、成瀬監督に指導を仰げと助言をしたのは、溝口と小津の両巨匠であった。「キネマ旬報」ベストテン第7位。なお、同監督の『稲妻』も同年の第2位を獲得している。